



横浜市立一本松小学校

6月号

令和5年5月31日
横浜市立一本松小学校
校長 高桑 透

学校だより

とらわれない・おそれない・あきらめない

副校長 杉山 嘉子

「持続可能な〇〇」、よく聞く言葉です。

「持続可能な社会」をつくること。それは現在、世界共通の大きな取組目標となっています。地域、保護者の皆様の身近なところでも、サステナブルな取組を実感する場面が多くあり、それが当たり前になりつつあるのではないのでしょうか。

では、「持続可能な学校」とは…学校づくりにおいて「持続不可能なこと」とは…

複雑で変化の激しい時代、解が一つではない予測できない課題にも柔軟に向き合い、生き抜く力を育てること。子どもが主体的に考え学び続け、多様な人々や社会と関わり合うことを大切にしたい「質の高い学び」の実現を目指しています。

その一方で、子どもも、地域も、教職員も元気、一人ひとりが互いに大切に、夢や希望を語ることでできる元気で幸せな場所とならなければ、持続可能な未来を創ることはできません。「質の高い学び」と「持続可能な学校」の同時達成を目指す必要があります。

「元気で幸せな場所」、一人ひとりを大切にする「一本松小学校の学校づくり」には、学校・地域によさと強みをいかし、未来を見据えて多様で複雑な課題解決をしていくことが求められています。本校には、自治会長様など地域住民の方、PTA会長様、学校とで構成する「学校運営協議会」、多様な学校サポートを実現する「一本松共育倶楽部」さんという、心強い存在もあります。

学校の子カラ、家庭の子カラ、地域の子カラ…子どもの成長に関わるみんなの力を結集して、学校づくりを目指しています。

制限のある中で行ってきた3年間の教育活動後、最初の年。育てたい子どもたちの姿を、地域、保護者の皆様、学校とで共有し、「持続可能な学校」の実現に向けて、皆様の「子カラ」をかしてください。5月26日から6月5日まで、「学校説明会」をYouTubeで配信中です。今年度の具体的な取組や教職員の紹介を行っています。ご視聴いただき学校づくりの参考にしていただければ幸いです。

令和5年度の教育活動がスタートして2か月。

満点の笑顔の「おはようございます!」、軽く会釈をして「おはようございます!」、昨日よりも元気はないけれど、それでも頑張る「おはようございます」、子どもたちのいろとりどりの「おはようございます」。子どもたちの素直な反応に「生きる力」を感じ、一日のパワーがわいてきます。

明るい声での「ありがとうございます」「お疲れ様です」「よろしく願います」…そんなやり取りは一本松小学校の職員室にもあります。元気で幸せに働く原動力です。

「元気で幸せな場所」づくりの原点は、随所にあります。身近な当たり前にも目を向け、だれもが「とらわれない・おそれない・あきらめない」挑戦ができるような風土と仕組みづくりに教職員一丸となって取り組みます。

今月も、一本松小学校の教育活動へのご理解、ご協力よろしく願いいたします。